

2017年度 キャリタス就活 学生モニター調査結果 (2016年3月発行)

第4回調査

3月1日時点の就職意識調査

2017年卒者の採用広報が3月1日に解禁され、多くの学生が就職活動を本格的にスタートした。解禁直後のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況や意識について調査を行った。

1. エントリー状況

○一人あたりのエントリー社数の平均は25.0社。今後の予定社数の平均は22.2社

2. セミナー・会社説明会への参加状況

○一人あたりの平均参加社数は15.6社。うち合同セミナーでの参加が8.1社

3. 選考試験の受験状況

○エントリーシート提出者は36.5%。筆記試験受験者36.6%、面接試験受験者30.0%

4. 3月1日現在の内定状況

○内定率は5.0%。前年同期(3.8%)より1.2ポイント増。「調査・コンサルタント」が最多

5. 就職活動の中心としている企業の規模

○「業界トップ/大手企業」志向が過半数(51.9%)。前年よりやや増加

6. 現時点の志望業界

○志望業界1位「銀行」、2位「水産・食品」、3位「素材・化学」

7. 志望職種とコース(職掌)

○志望職種、文系は「営業」「事務・管理」が上位、理系は「研究・開発・設計」に集中

8. 理系学生の就職意識

○「自由応募のみで活動」が58.9%で引き続き過半数。「推薦のみで活動」は1.8%

9. 企業研究を行う上で知りたい情報

○トップ3は、「実際の仕事内容」「社風」「他社と比べた強み・弱み」

10. 今後の就職活動の方針と終了希望時期

○「気になる企業にはとりにあらずエントリーする」77.9%

○就職活動を終えたい時期は、6月に集中。「6月上旬」20.6%、「6月下旬」20.3%

11. 就職活動で話題になっていることや真偽が知りたい噂

調査概要

調査対象 : 2017年3月に卒業予定の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)

回答者数 : 1,332人(文系男子435人、文系女子431人、理系男子286人、理系女子180人)

調査方法 : インターネット調査法

調査期間 : 2016年3月1日~7日

サンプリング : キャリタス就活2017学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505/株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

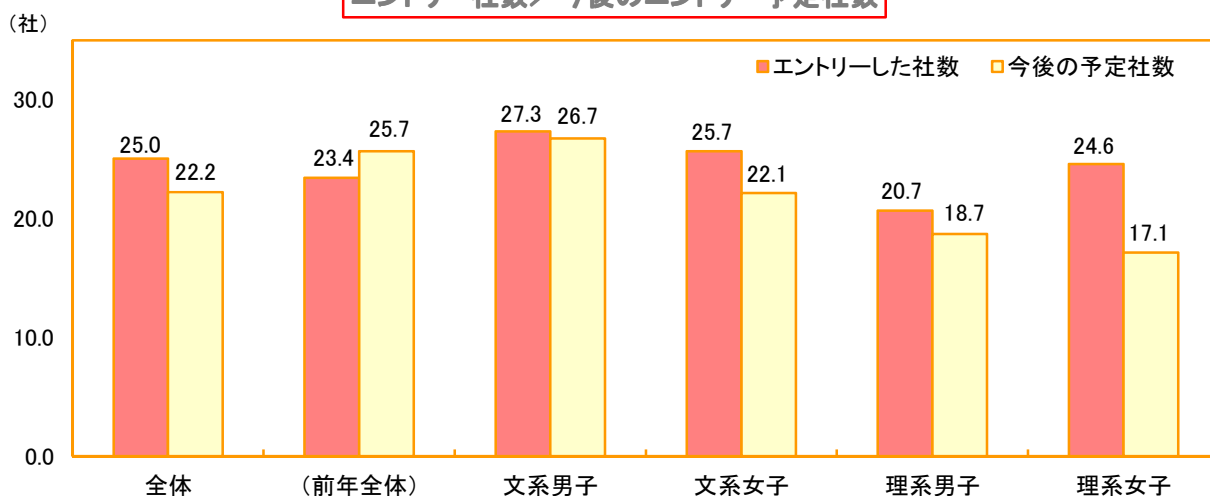
1. エントリー状況

2017年卒者の就職活動が、3月1日より本格的にスタートした。まず全体的な活動量を確認しよう。

一人あたりのエントリー社数の平均は25.0社。前年同期調査 (23.4社) よりやや早いペースだ。今後のエントリー予定社数の平均は22.2社で、両者を足し合わせた数は47.2社。前年調査では、この数は49.1社だったので、やや少ない。今年は選考解禁が2カ月早まる分、早く就職活動を終える学生が増えると見られ、最終的なエントリー社数は前年実績 (63.9社/12月時点) に及ばない可能性がある。

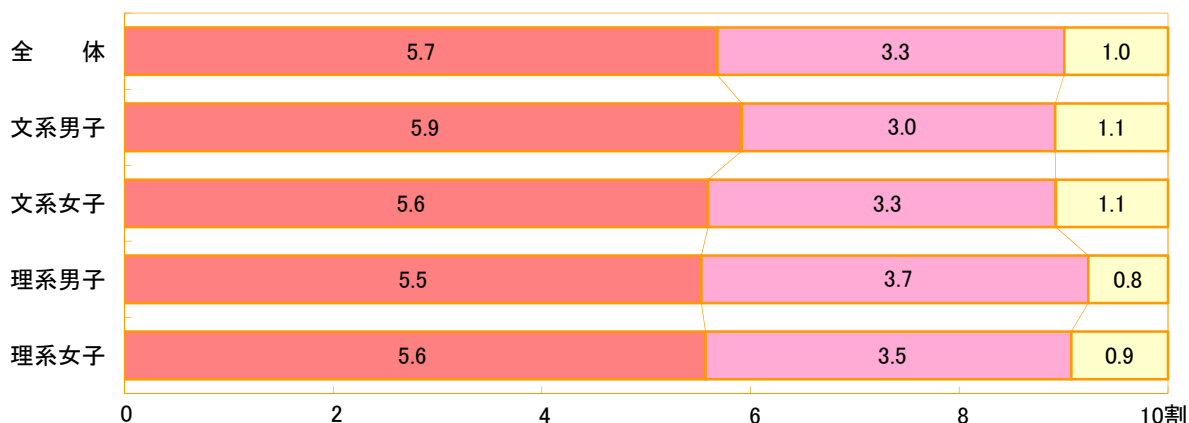
现阶段でエントリーした企業は、どの時期に知った企業だろうか。時期の内訳を尋ねた。合計が10割になるように回答してもらったところ、「もともと知っていた企業」が全体の6割近くを占めた (5.7割)。3月1日の解禁後に知った企業は1割にとどまり、まずは知っている企業からエントリーをしている様子がよく表れている。

エントリー社数/今後のエントリー予定社数



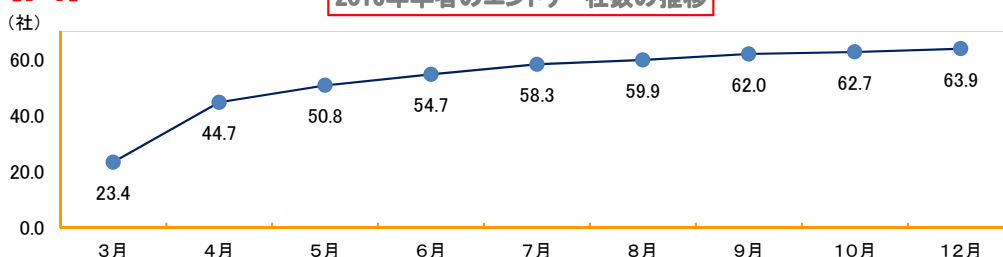
エントリーした企業を知った時期(内訳)

もともと知っていた企業 3月より前のインターンシップや業界研究で知った企業 3月1日以降の就職活動で知った企業



【参考】

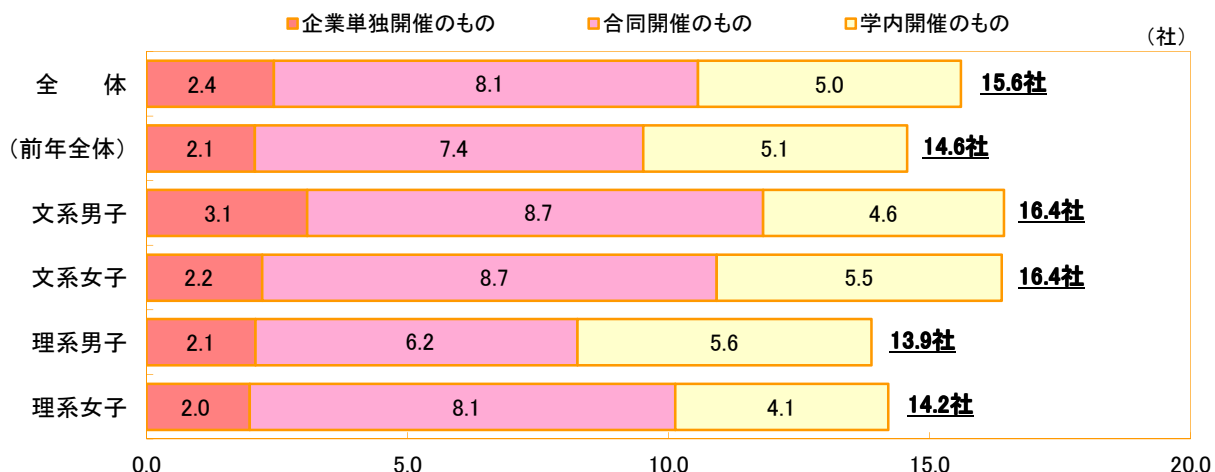
2016年卒者のエントリー社数の推移



2. セミナー・会社説明会への参加状況

セミナー・会社説明会の平均参加社数は15.6社で、前年同期（14.6社）より1社分多い。開催形式ごとに見ると、合同開催のものが8.1社で半数強を占め就職活動開始当初は、合同セミナーを中心に活動する学生が多いことがうかがえる。合同セミナーへの来場回数の平均は2.0回なので、1回あたり4社を訪問している計算になる。

セミナー・会社説明会参加社数と内訳



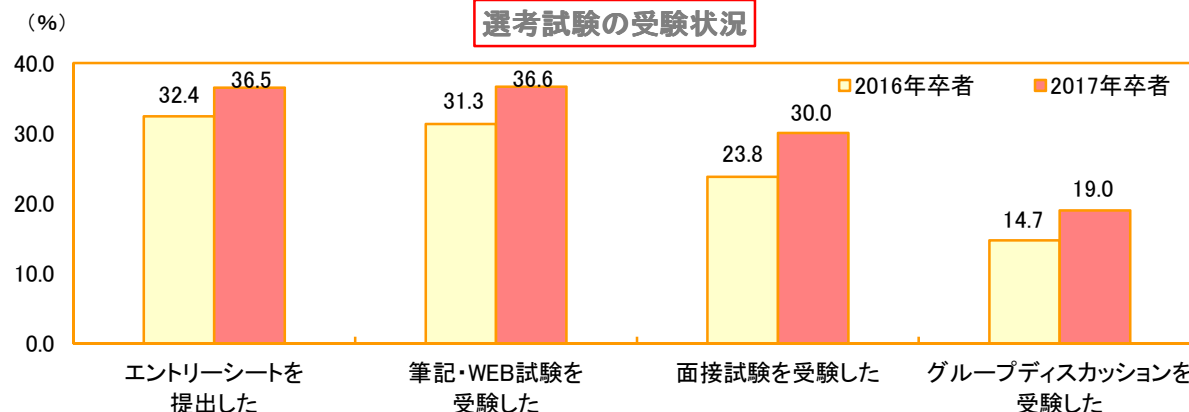
合同開催・学内開催参加回数

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
合同開催セミナーへの来場	2.0	1.9	2.1	2.1	1.4	2.4
学内開催セミナーへの来場	1.9	1.8	1.7	2.1	1.8	1.6

3. 選考試験の受験状況

エントリーシートを提出した学生は全体で36.5%。3人に1人以上が、すでに提出経験をもつ。提出社数の平均は3.6社。筆記・WEB試験を受験した学生は36.6%、面接試験受験者は30.0%など、いずれも前年同期を上回る経験率だ。動きの早い企業の選考を率先して受けている学生の存在が認められる。

選考試験の受験状況



選考試験の受験社数

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート	3.6	3.6	3.7	3.9	3.8	2.3
筆記・WEB試験	2.4	2.3	2.6	2.5	2.4	1.5
面接試験	2.1	2.1	2.3	2.0	2.1	1.5
グループディスカッション	2.1	2.0	2.3	2.1	1.9	1.4

4. 3月1日現在の内定状況

エントリー社数、セミナー参加、選考試験など、どれをとっても前年同期より高水準で、早期から活発に活動をしている様子が表れているが、内定取得についても同様の傾向がうかがえる。調査時点ですでに内定を手に入れているという学生は全体の5.0%。前年同期(3.8%)を1.2ポイント上回る。内定社数の平均は1.2社。内定を得た業界は「調査・コンサルタント」(32.8%)、「情報・インターネットサービス」(9.0%)に集中しており、これらの業界が早くから動いていることがわかる。

3月1日現在の内定状況

*「内定」には、内々定を含む (%)

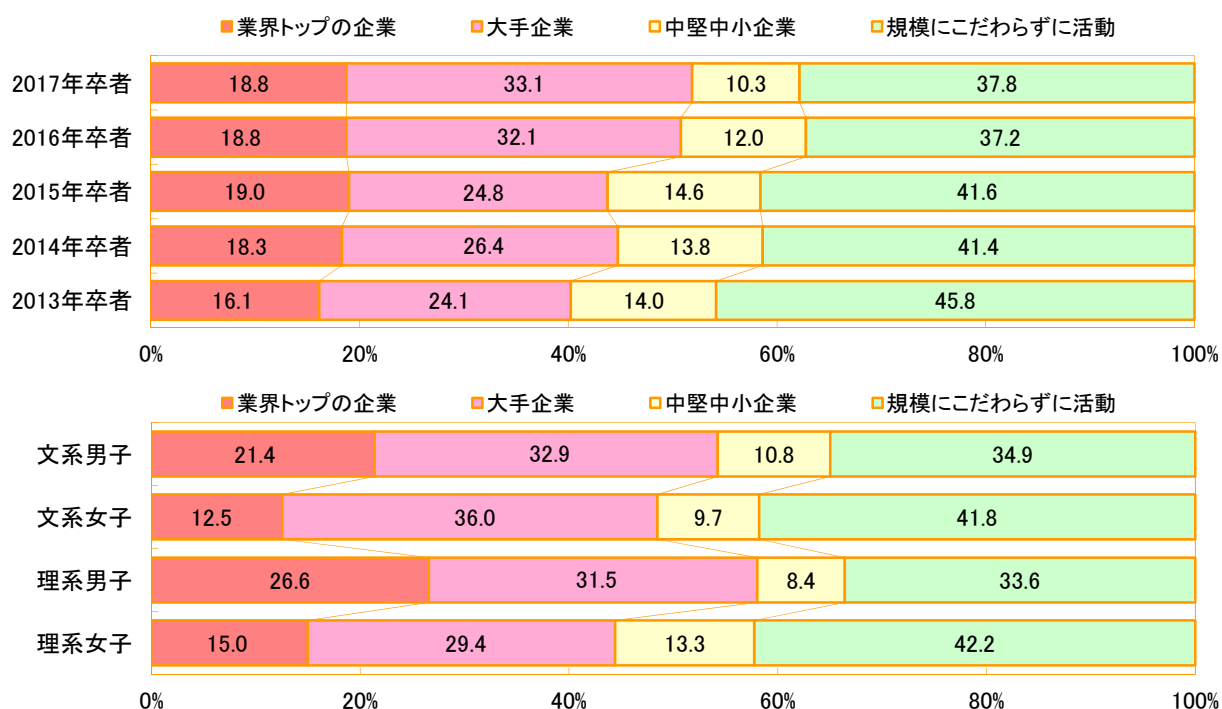
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定有り		5.0 (3.8)	6.9 (4.1)	5.8 (2.1)	2.8 (4.9)	2.2 (4.1)
内定なし		95.0 (96.2)	93.1 (95.9)	94.2 (97.9)	97.2 (95.1)	97.8 (95.9)
内定社数 (平均/社)		1.2 (1.2)	1.2 (1.2)	1.1 (1.3)	1.3 (1.2)	1.5 (1.1)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	9.0 (20.4)	13.3 (11.1)	0.0 (25.0)	25.0 (25.0)	0.0 (25.0)
	活動は終了したが複数内定保持	1.5 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	12.5 (0.0)	0.0 (0.0)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	89.6 (79.6)	86.7 (88.9)	100.0 (75.0)	62.5 (75.0)	100.0 (75.0)

5. 就職活動の中心としている企業の規模

就職活動の中心とする企業規模は、「業界トップの企業」18.8%、「大手企業」33.1%で、いわゆる「大手ねらい」の学生は51.9%。学生に優位な売り手市場と言われる中で、大手志向はさらに強まると見られていたが、意外に前年とほとんど変わっていなかった。

これを文理男女別に見ると、男子で業界トップ企業を志向する者が多く(文系男子21.4%、理系男子26.6%)、女子では規模にこだわらないとする割合が高い(文系女子41.8%、理系女子42.2%)。

活動の中心としている企業の規模



6. 現時点の志望業界

3月1日の時点で志望業界を「決めている」学生は93.2%で、今年も9割以上が解禁時点で志望業界を決めていたことがわかった。

「決めている」と回答した人に具体的な志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらったところ、「銀行」が22.9%で最も多く、以下「水産・食品」19.6%、「素材・化学」17.4%と続く。上位業界の顔ぶれは例年と大きく変わらない。ただ、志望業界は、説明会に参加したりOB・OG訪問をしたりする中で、徐々に変化していくのが毎年の傾向である。

現時点の順位を文理男女別に見ると、文系は男女とも「銀行」が首位で、理系は男子が「素材・化学」、女子は「医薬品・医療関連・化粧品」が最も多い。

志望業界の決定状況

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
決めている	93.2	93.8	92.2	92.8	93.4	96.7
決めていない	6.8	6.2	7.8	7.2	6.6	3.3

志 望 業 界 (上位20業界)

全 体		文系男子		文系女子		理系男子		理系女子		
1	銀行 ①	22.9	銀行	30.2	銀行	31.8	素材・化学	25.8	医薬品・医療関連・化粧品	38.5
2	水産・食品 ②	19.6	運輸・倉庫	22.2	マスコミ	24.5	電子・電機	25.1	水産・食品	36.2
3	素材・化学 ④	17.4	商社(総合)	17.7	保険	18.0	エネルギー	23.6	素材・化学	32.2
4	医薬品・医療関連・化粧品 ③	16.2	水産・食品	16.5	商社(総合)	17.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	21.7	官公庁・団体	17.2
5	マスコミ ⑥	15.5	調査・コンサルタント	16.5	ホテル・旅行	17.5	医薬品・医療関連・化粧品	21.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	14.4
6	運輸・倉庫 ⑦	15.4	商社(専門)	15.7	水産・食品	17.3	情報・インターネットサービス	18.7	情報・インターネットサービス	13.8
7	電子・電機 ⑨	13.3	保険	15.2	建設・住宅・不動産	14.0	自動車・輸送用機器	18.4	精密機器・医療用機器	11.5
	官公庁・団体 ⑩	13.3	マスコミ	15.0	運輸・倉庫	13.5	精密機器・医療用機器	17.6	電子・電機	10.9
9	商社(総合) ⑤	13.1	建設・住宅・不動産	14.5	商社(専門)	13.3	水産・食品	17.2	建設・住宅・不動産	10.3
	保険 ⑧	12.6	官公庁・団体	13.5	素材・化学	12.0	官公庁・団体	14.6	印刷・パッケージ	10.3
10	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.6	情報・インターネットサービス	12.2	医薬品・医療関連・化粧品	11.8	機械・プラントエンジニアリング	14.6	マスコミ	9.8
	情報・インターネットサービス	12.6	自動車・輸送用機器	12.0	信用金庫・労働金庫・信用組合	11.0	運輸・倉庫	13.9	調査・コンサルタント	9.2
	調査・コンサルタント	12.6	エネルギー	11.5	調査・コンサルタント	10.5	通信関連	13.1	通信関連	6.9
14	建設・住宅・不動産	12.2	信用金庫・労働金庫・信用組合	11.5	官公庁・団体	10.5	調査・コンサルタント	12.4	農業・林業・鉱業	6.9
15	エネルギー	11.8	素材・化学	10.7	教育	9.8	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	10.1	運輸・倉庫	6.3
16	自動車・輸送用機器	10.8	電子・電機	10.7	電子・電機	9.0	銀行	9.7	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	6.3
	商社(専門)	10.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	10.7	人材紹介・人材派遣	9.0	鉄鋼・非鉄・金属製品	7.9	銀行	6.3
18	ホテル・旅行	9.6	証券・投信・投資顧問	9.0	印刷・パッケージ	9.0	建設・住宅・不動産	7.5	鉄鋼・非鉄・金属製品	6.3
19	精密機器・医療用機器	9.4	ホテル・旅行	8.2	情報・インターネットサービス	8.3	マスコミ	6.4	エネルギー	5.7
20	機械・プラントエンジニアリング	7.7	医薬品・医療関連・化粧品	7.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	7.8	商社(総合)	6.0	自動車・輸送用機器	5.7
							保険	6.0		

※○の中の数字は2016年2月同調査の全体順位10位以内

7. 志望職種とコース (職掌)

3月1日の時点で志望職種を決めている学生は86.4%。志望業界(93.2%)ほどではないが、決定状況はかなり高いと言っていいだろう。

第一志望の職種は、文理男女で差が見られる。文系男子は「営業」がトップで、4割以上が選んでいる(41.0%)。文系女子のトップは「事務・管理」(30.9%)だが、2番目の「営業」(26.9%)と数字が割れている。理系では、男女とも「研究・開発・設計」が最も多く、男子で45.4%、女子で40.0%が選んでいる。男女とも2位は「ITエンジニア」が来ている(理系男子17.3%、理系女子10.6%)

志望職種 (第1志望)

文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
1	営業 41.0	1	事務・管理 30.9	1	研究・開発・設計 45.4	1	研究・開発・設計 40.0
2	企画・マーケティング 17.9	2	営業 26.9	2	ITエンジニア 17.3	2	ITエンジニア 10.6
3	事務・管理 17.4	3	企画・マーケティング 19.0	3	営業 6.8		生産・製造・品質管理 10.6
4	専門・スペシャリスト 6.3	4	クリエイティブ 5.8	4	生産・製造・品質管理 6.4	4	営業 10.0
5	ITエンジニア 5.5	5	ITエンジニア 4.5	5	企画・マーケティング 6.0		企画・マーケティング 10.0
6	金融専門職 5.0		サービス・販売職 4.5		専門・スペシャリスト 6.0	6	事務・管理 6.3
7	クリエイティブ 2.5	7	金融専門職 4.2	7	事務・管理 4.4	7	建築・土木設計 5.6
	サービス・販売職 2.5	8	専門・スペシャリスト 3.2	8	建築・土木設計 2.8		専門・スペシャリスト 5.6
9	生産・製造・品質管理 1.1	9	研究・開発・設計 0.5	9	金融専門職 2.0	9	金融専門職 0.6
10	研究・開発・設計 0.6	10	建築・土木設計 0.3	10	サービス・販売職 1.6		サービス・販売職 0.6
11	建築・土木設計 0.3		生産・製造・品質管理 0.3	11	クリエイティブ 1.2	11	クリエイティブ 0.0

また、総合職・一般職といったコース(職掌)についても同時に尋ねた。第1志望のコースを見ると、すべての属性で「総合職」が最も多く、次いで「エリア総合職・準総合職」、「一般職」の順であった。但し、男女でポイントに差が見られ、男子は総合職に集中しているのに対し、女子はエリア総合職・準総合職の割合も比較的高い。

志望コース (第1志望)

文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
1	総合職 83.2	1	総合職 54.1	1	総合職 73.8	1	総合職 64.4
2	エリア総合職・準総合職 10.6	2	エリア総合職・準総合職 31.1	2	一般職 14.3	2	エリア総合職・準総合職 25.0
3	一般職 6.2	3	一般職 14.8	3	エリア総合職・準総合職 11.9	3	一般職 10.6

※「総合職」=基幹的業務に従事し、転居を伴う転勤がある

「エリア総合職・準総合職」=特定の地域で総合職に準ずる業務に従事し、転居を伴う転勤がない

「一般職」=主に定型的業務に従事し、転居を伴う転勤がない

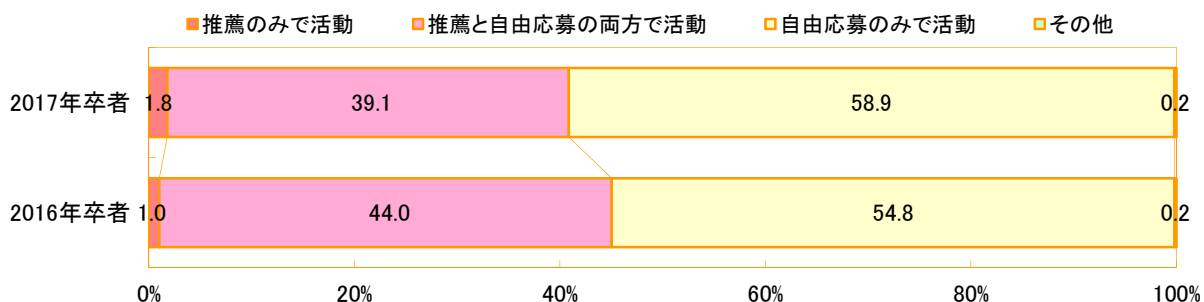
8. 理系学生の就職意識

理系学生に対し、就職活動の進め方について「推薦か自由応募か」という観点で尋ねた。

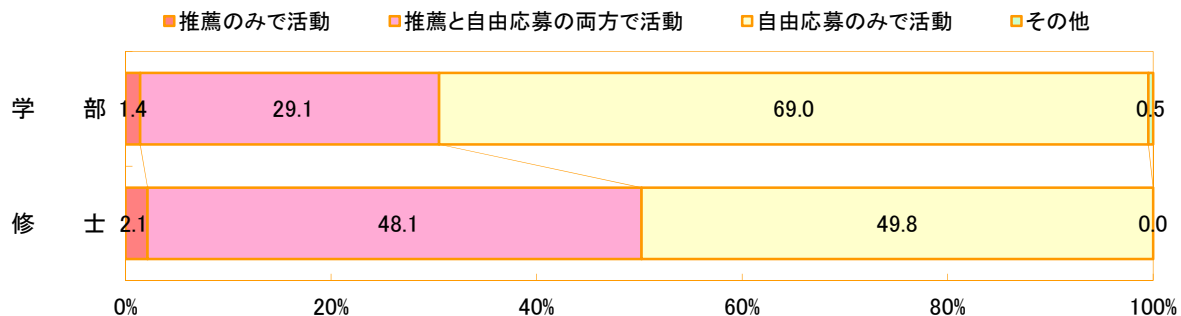
「自由応募のみで活動」が今年も過半数に上り (58.9%)、前年調査 (56.6%) よりさらに増加した。併願を含め自由応募で活動をすると回答した人にその理由を尋ねたところ、「希望の企業からの推薦枠がない」が 31.9% で例年どおり最も多かった。前年調査よりも大きく増えたのが「自分で就職先を見つけたい」で、16.2% から 23.6% へと 7 ポイント余り増加し、2 番目に多くなった。選考解禁が 2 カ月前倒しされたことで、先輩たちよりも学業との両立がしやすくなることに加え、企業の採用意欲が高いことで、自由応募でも十分希望の企業に入れるという目算があるのだろう。

なお、学部生に比べ企業からの推薦依頼の多い修士学生では、推薦利用予定者は 50.2% に上る。

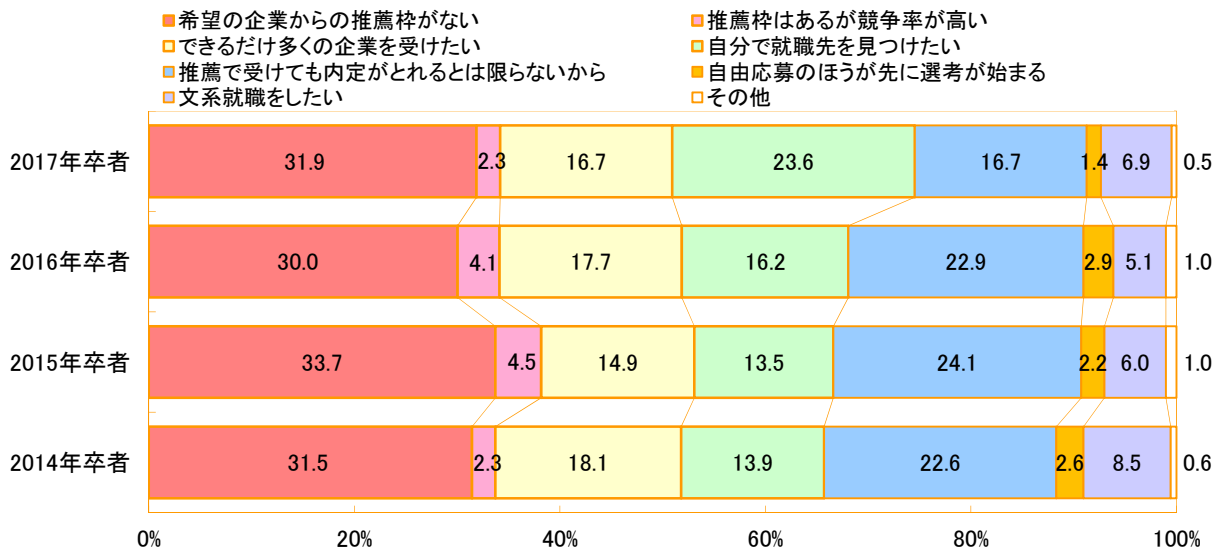
理系学生の就職活動の進め方



理系学生の就職活動の進め方(学部/修士)



自由応募で活動する理由

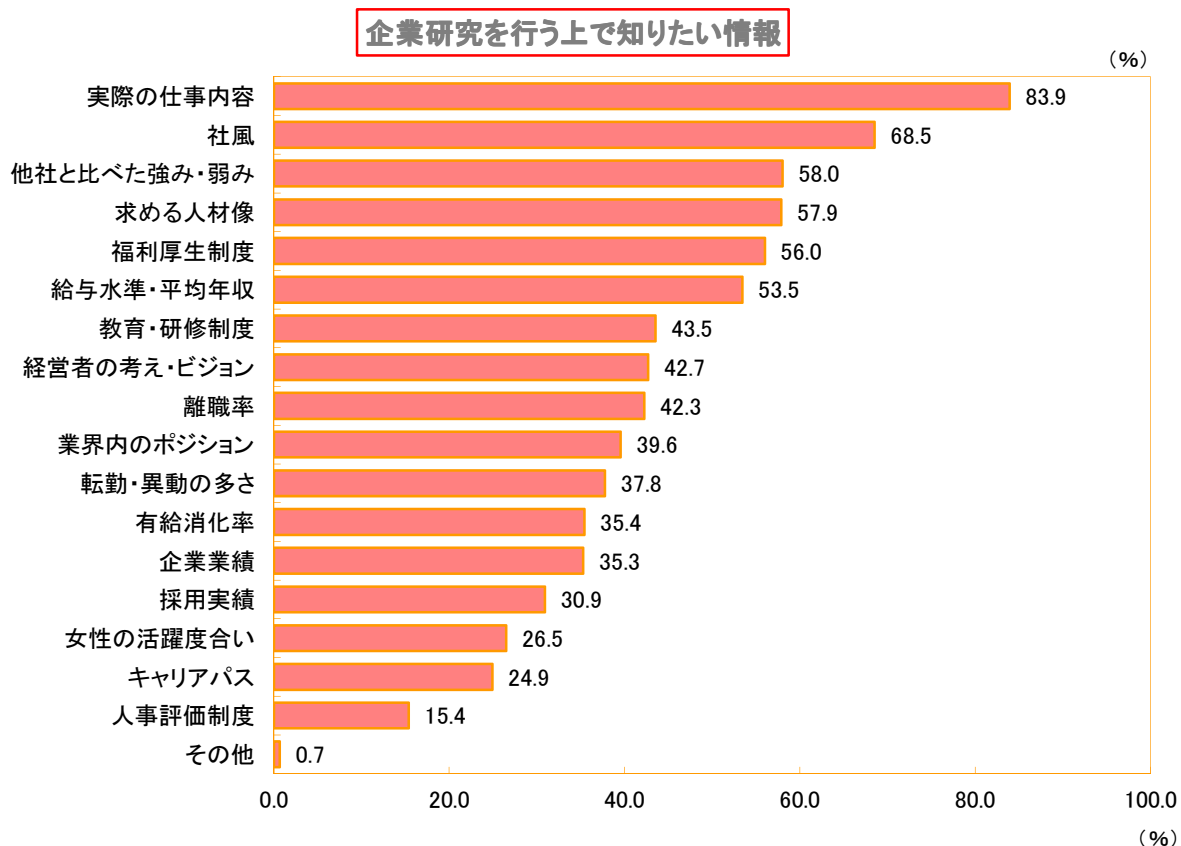


9. 企業研究を行う上で知りたい情報

多くの学生がこれから企業研究を本格化させていくが、企業研究をする上で知りたい情報は何かを尋ねた。設定項目からいくつでも選んでもらったところ、トップは「実際の仕事内容」で、8割以上が選んだ(83.9%)。2番目は、「社風」で68.5%。3番目からは僅差で「他社と比べた強み・弱み」(58.0%)、「求める人材像」(57.9%)、「福利厚生制度」(56.0%)などが続く。

「社風」は、男女差が大きく、女子で7割以上が選んだのに対し(文系女子76.3%、理系女子72.2%)、男子では6割程度にとどまる(文系男子65.3%、理系男子59.4%)。

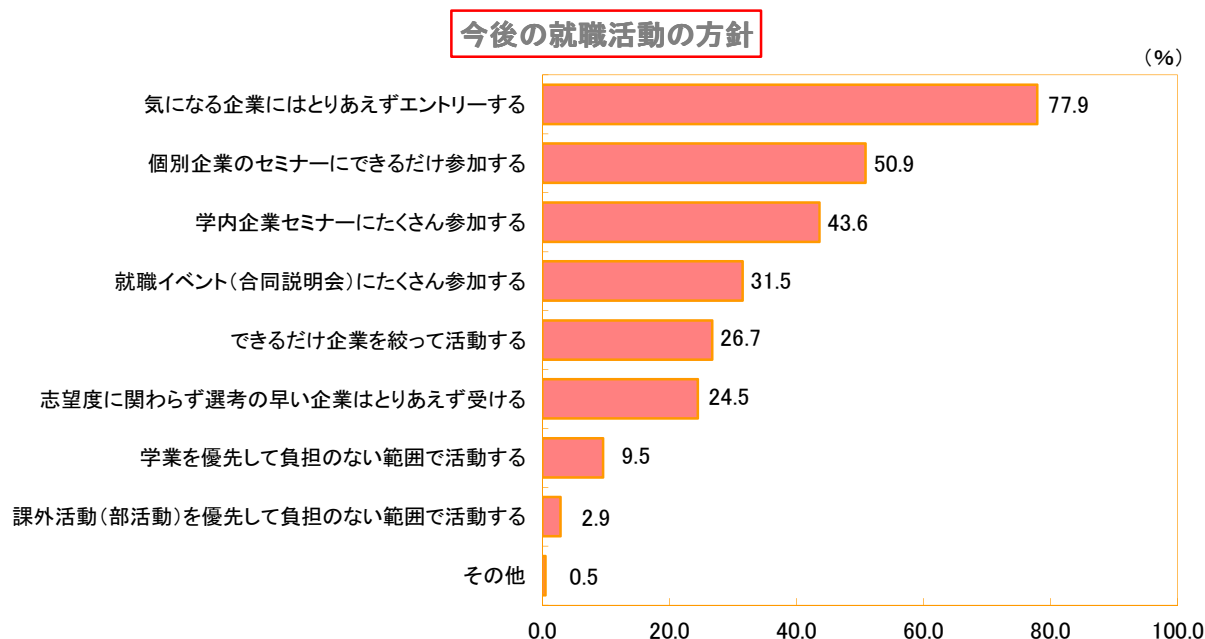
全体的に女子のほうが男子より多くの項目を選んでおり、様々な角度から企業を見極めようとする傾向がうかがえる。



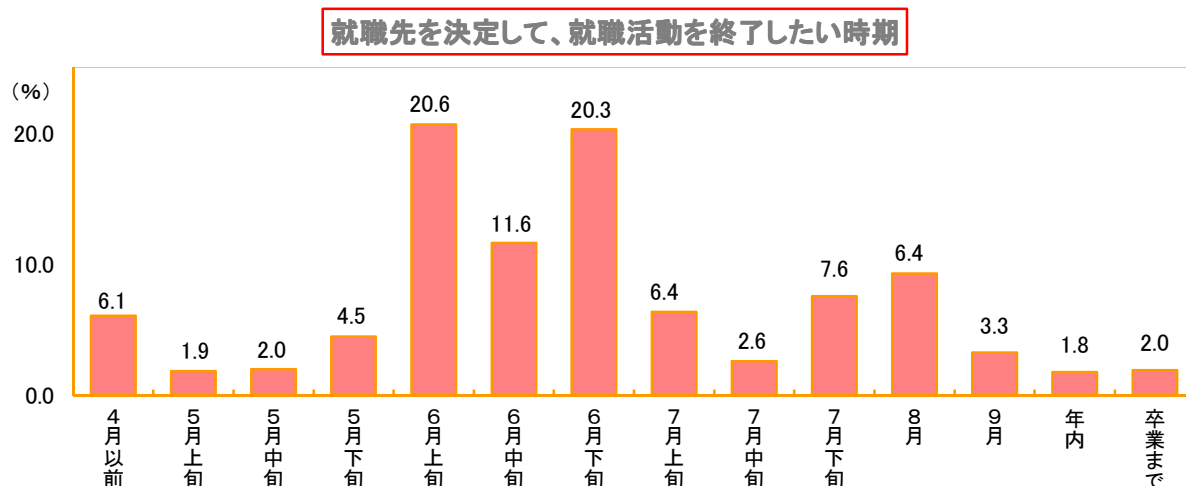
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
実際の仕事内容	83.9	80.7	85.2	82.9	90.6
社風	68.5	65.3	76.3	59.4	72.2
他社と比べた強み・弱み	58.0	54.5	62.2	56.3	59.4
求める人材像	57.9	55.6	62.4	54.9	57.2
福利厚生制度	56.0	47.1	65.0	50.3	65.0
給与水準・平均年収	53.5	52.9	51.5	59.1	50.6
教育・研修制度	43.5	39.8	46.9	41.6	47.8
経営者の考え・ビジョン	42.7	46.2	43.6	37.1	41.1
離職率	42.3	41.1	49.7	35.7	37.8
業界内のポジション	39.6	38.6	38.7	40.6	42.2
転勤・異動の多さ	37.8	36.1	41.1	33.6	40.6
有給消化率	35.4	32.9	43.4	28.3	33.9
企業業績	35.3	35.4	32.7	40.6	32.8
採用実績	30.9	30.1	31.1	33.2	28.9
女性の活躍度合い	26.5	1.8	59.9	1.7	45.6
キャリアパス	24.9	23.0	20.4	34.6	25.0
人事評価制度	15.4	20.5	13.2	14.0	10.6
その他	0.7	0.7	0.9	0.3	0.6

10. 今後の就職活動の方針と終了希望時期

今後の就職活動の方針を尋ねた。最も多くが選んだのは「気になる企業にはとりあえずエントリーする」で8割近い(77.9%)。多くの企業で3月からエントリー受付を始めたばかりであり、学生側も興味のもてる企業を一生懸命探している段階であることがうかがえる。次いで「個別企業のセミナーにできるだけ参加する」(50.9%)、「学内セミナーにたくさん参加する」(43.6%)と続き、チャンスを求めて広く活動する方針を取る学生が多いことがわかる。就職活動は始まったばかりであり、志望先を絞って効率よく回るよりは、広く情報収集をしようと考えている学生が大半である。しかし、一方で「できるだけ企業を絞って活動する」という回答が26.7%あり、4人に1人は志望先を絞る方針を示した。

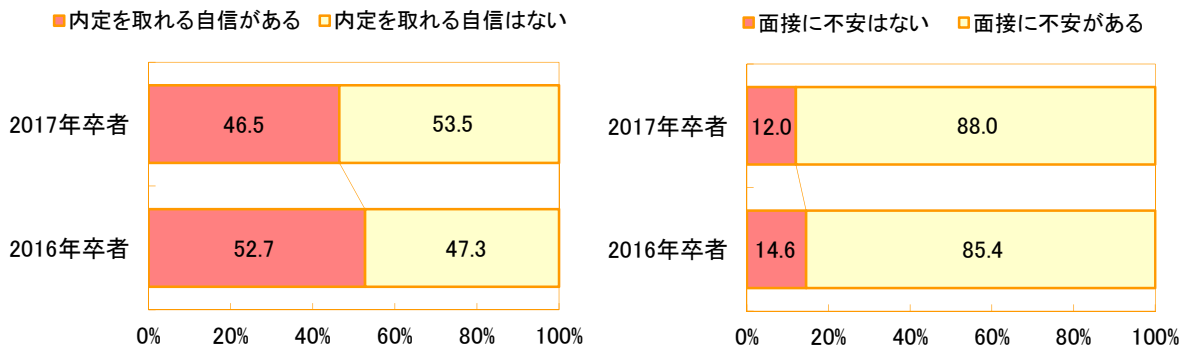


就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期を尋ねたところ、「6月上旬」(20.6%)と「6月下旬」(20.3%)と答えた割合が多く、「6月中旬」(11.6%)を合わせて52.5%が、6月に終了したいと回答した。選考解禁から1カ月以内に終わりたいとの考えが主流であることがわかる。選考解禁より前に終了したい学生も合計して14.5%おり、6月下旬までをあわせると7割近くに上る(67.0%)。学生側も短期決戦を意識している様子が表れている。



就職活動に臨む今の心境を尋ねた。内定取得については、「内定を取れる自信がある」が 46.5%、「自信はない」が 53.5%で、自信がない学生のほうが多かった。前年調査と数字がほぼ逆転しているが、選考時期の前倒しで準備期間が短縮されたことが要因だろうか。面接については、「面接に不安がある」と回答した学生が 88.0%に上り、前年 (85.4%) より面接に不安を持つ学生が増加した。

就職活動に臨む今の心境



11. 就職活動で話題になっていることや真偽が知りたい噂

就職活動に関して、周囲で話題になっていることや、真偽が知りたい噂などを自由に書いてもらった。鋭い指摘から都市伝説レベルのものまで、様々なコメントが寄せられた。

- 企業マイページのアクセス数をチェックされるという噂。 <文系女子>
- 地方の大学生は「こつこつ」とか「丁寧」をウリにする学生が多く、そういうことを書いてもあまり評価されないという話を聞きました。実際のところどうなのでしょう。 <文系男子>
- 先日行われた学内企業研究会に来ていた内定者がコネで内定を決めていたことが学生の間で話題になっていました。「コネってほんまにあるんやなあ」というような感じで。 <理系女子>
- 学科推薦で決められた推薦枠以上に、多くの人に内定を出す企業があるらしい。 <理系男子>
- 金融業界について、スタンプリヤーと言われるように、セミナーの出欠が重要になっているという噂。 <文系男子>
- 企業から就活を終わらせてと言われたときにどう対処すれば良いのか知りたい。内定辞退したら土下座させられる、コーヒーかけられるってほんと？ <文系女子>
- 会社説明会は定員を少なめにしている、当日に飛び込みで参加するような行動をとるバイタリティを持っているかを試しているという話を聞いたことがあるが、本当なのか知りたい。 <文系男子>
- 靴が少しでも尖っていると絶対に面接で落とされると言っている就活アドバイザーが居るが、それほど高確率で落とせるものなのか。また、どの程度尖っているとダメであるのか。 <理系男子>
- 前髪を伸ばしてピンでとめたほうが良い（おでこを出したほうが良い）といわれているが、本当か。驚くほど似合わないの、できれば切りたい。 <理系女子>
- 多くの企業が5月中には内々定を出し、早めに就職活動が終えられるのではないかと話題になっている。 <文系女子>
- セミナー予約で全て満席と出たら、それは学歴フィルターか、本当に先着で満席になったのか、真偽が知りたい！ <理系女子>
- 銀行のイメージカラーによってその色のネクタイを締めていかなければいけないと聞きましたが、本当か分かりません。 <文系男子>